



できることから始めよう

次はあなたも エコライフ

環境課
内線253

「アイドリングストップ」をご存じですか？

私たちの生活に欠かすことのできない自動車。今や、一人一台所有している家庭も珍しくありません。しかし、便利な自動車も環境面では問題となってしまうことがあります。

都市部で深刻となっている窒素酸化物による大気汚染は、約5〜7割が自動車の排気ガスです。また、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量のうち約2割が自動車を中心とする交通から出ています。自動車による騒音問題もあります。

では、少しでも地球や地域に優しい運転をするには、どうしたら良いでしょうか。

自動車が走っていないときにエンジンが回っている状態を「アイドリング」といいます。

日常生活で意外とたくさんアイドリングを行っていることに、皆さんは気付いているでしょうか。

か。例えば、駅で人を待っているとき、自動販売機やコンビニで買い物をするとき、キャッシュコーナーを利用するとき、忘れ物を取りに帰るとき…。このような無駄なアイドリング状態を止めることを「アイドリングストップ」といいます。「アイドリングストップ」は環境のためには良いのはいうまでもなく、燃料代の節約にもなります。

環境省のデータによると、乗用車が10分間アイドリングしたときの燃料消費量は0・14リットル。1日10分のアイドリングストップを1年間続けると、約51リットルの燃料が節約できます。1リットル当たり140円とすると、年間で約7千円もの節約になります。

少し意識すれば簡単にできるアイドリングストップ。さっそく始めてみませんか。

あのとき、ときは

今は昔、土岐市初の人間国宝が誕生した年。NHKドラマ「おしん」の放送が始まり、日本中で「おしんブーム」が沸き起こりました。今月は30年前の昭和58年（1983年）の土岐市を振り返ります。

昭和58(1983)年 「広報とき」より

塚本快示氏が人間国宝に 〈4月15日号掲載〉

塚本快示氏（当時70歳）が本市では初となる国指定重要無形文化財「人間国宝」に指定されたのは昭和58年のことです。塚本氏は中国北宋時代の定窯の白磁や景德鎮窯の青白磁の再現に専心され、本場中国でも高い評価を受けました。



三国山山頂に「四国八十八カ所」再現 〈1月15日号掲載〉

「三二四国八十八カ所」が最初に三国山につくられたのは昭和9年頃のこと。それから50年近くたち、木立に埋もれてしまった石像が地元の方により発掘され、四国八十八カ所が再現しました。高さ50センチ程の大師石像88体が三国山案内板から頂上の展望台まで、およそ100メートルの道端に並べられ、三国山の“新名物”に加えられました。



昭和10年頃の三国山